



**2015年3月期決算、2016年3月期業績予想
について**

2015年5月15日

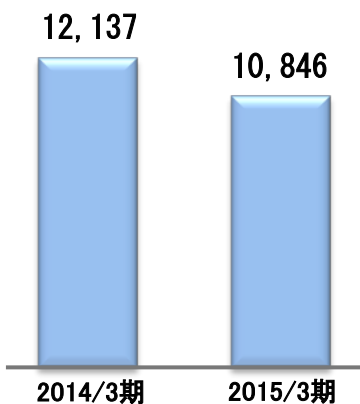
本資料及び本説明会におけるご説明に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述・言明は、現在当社の経営陣が入手している情報に基づいて行った判断・評価・事実認識・方針の策定等に基づいてなされもしくは算定されています。

また、過去に確定し正確に認識された事実以外に、将来の予想及びその記述を行うために不可欠となる一定の前提(仮定)を用いてなされもしくは算定したものです。将来の予測及び将来の見通しに関する記述・言明に本質的に内在する不確定性・不確実性及び今後の事業運営や内外の経済、証券市場その他の状況変化等による変動可能性に照らし、現実の業績の数値、結果、パフォーマンス及び成果は、本資料及び本説明会におけるご説明に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述・言明と異なる可能性があります。

※ 本資料中の「E」は記載の数値が計画または業績予想であることを表しています。

連結営業利益

(億円)



海外売上高



● 営業収益は5期連続の増収、営業利益は減益

● グローバル・クラウドサービスの拡大

➢ M&Aの推進

- ・コミュニケーションズによる欧州のデータセンター事業者e-shelterの買収

➢ クロスセル受注額 : 約2億ドル

➢ 海外売上高 : 15,854億円へ拡大(対前年+3,894億円)

➢ 法人売上高海外比率 : 44%

● ネットワークサービスの競争力強化

➢ ユーザ基盤の拡大

- ・新料金プラン契約数 : 1,783万

- ・携帯電話契約数 : 6,660万(純増+349万)

- ・フレッツ光契約数 : 1,872万(純増+67万)、(再)コラボ光27万

- ・ひかりTV及びフレッツテレビ契約数 : 436万(純増+37万)

➢ 固定/移動アクセス系のコスト削減

- ・単年度▲2,390億円、累計では▲6,510億円(対2012年3月期)

➢ Capex to Sales

- ・設備投資の効率化により15.6%

● 株主還元

➢ 政府を中心に3,381億円の自己株式を取得

➢ 年間配当は1株当たり180円(対前年10円の増額)

2015年3月期 連結決算の概況

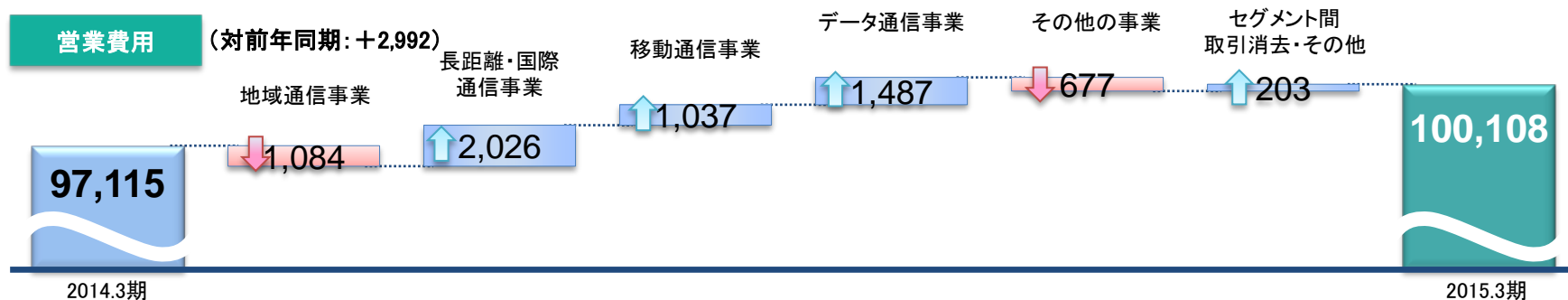
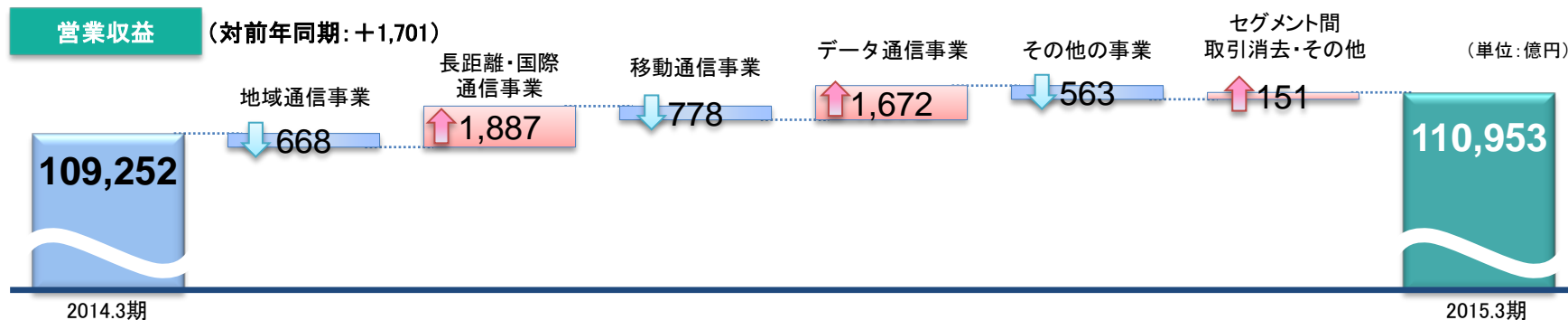
- 営業収益は、引き続き海外事業の成長が牽引し増収
- 営業利益は、移動通信セグメントの減益をカバーできず減益
対業績予想では、▲104億円の計画未達
- EPSは473.69円(対2012年3月期+29.2%)

(単位:億円)

	2015年3月期実績				2014年3月期 実績	2015年3月期 業績予想
		対前期増減額	対前期増減率	対業績予想増減額		
営業収益	110,953	+1,701	+1.6%	+853	109,252	110,100
営業費用	100,108	+2,992	+3.1%	+958	97,115	99,150
営業利益	10,846	▲ 1,291	▲ 10.6%	▲ 104	12,137	10,950
当期純利益※	5,181	▲ 674	▲ 11.5%	▲ 109	5,855	5,290
EPS (単位:円)	473.69	▲ 35.52	▲ 7.0%	▲ 5.31	509.21	479.00

※当期純利益は、当社に帰属する当期純利益(非支配持分帰属分控除後)を記載しております。

- 地域通信：徹底した業務効率化やマーケティングコストの削減により増益
- 長距離・国際通信：国内の競争激化により減益であるものの、海外ビジネスは着実に成長
- 移動通信：月々サポート影響の拡大や新料金プランの減収影響により減益
- データ通信：売上拡大に伴う粗利改善に加え、不採算案件抑制の効果等により増益



営業利益 (対前年同期: ▲1,291)

2014.3期実績	地域通信事業	長距離・国際通信事業	移動通信事業	データ通信事業	その他の事業	セグメント間取引消去・その他	2015.3期実績
12,137	↑416	↓139	↓1,815	↑184	↑114	↓51	10,846

- 営業収益は6期連続増収の11兆3,500億円、過去最高収益
- 営業利益は1兆2,000億円へ回復、対前年+1,154億円
- EPSは595円(対2012年3月期+62.3%)

(単位:億円)

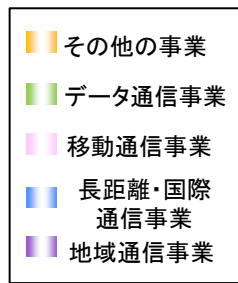
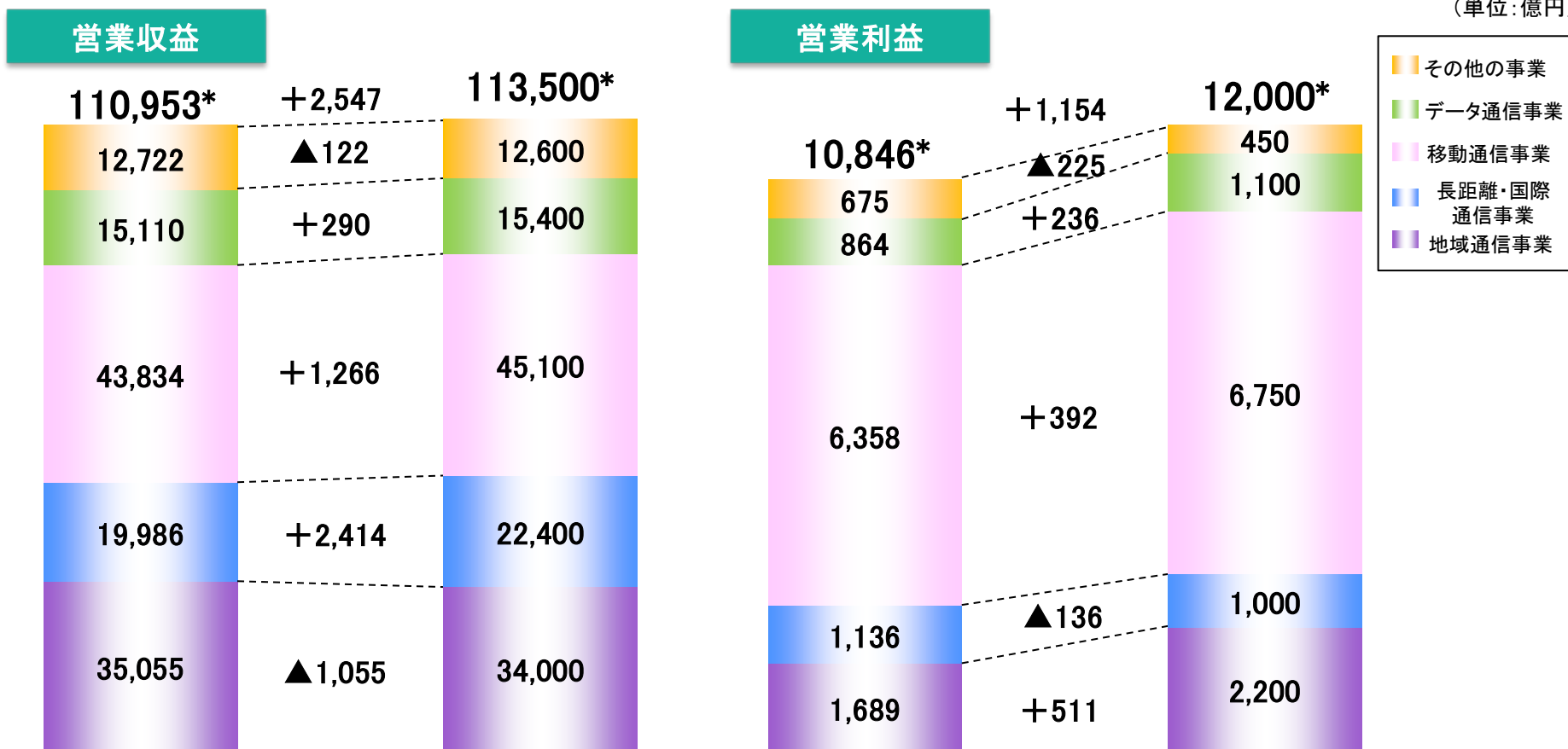
	2015年3月期 実績	2016年3月期業績予想		
			対前期増減額	対前期増減率
営業収益	110,953	113,500	+2,547	+2.3%
営業費用	100,108	101,500	+1,392	+1.4%
営業利益	10,846	12,000	+1,154	+10.6%
当期純利益※	5,181	6,300	+1,119	+21.6%
EPS (単位:円)	473.69	595.00	+121.31	+25.6%

※当期純利益は、当社に帰属する当期純利益(非支配持分帰属分控除後)を記載しております。

セグメント別の業績予想の概要

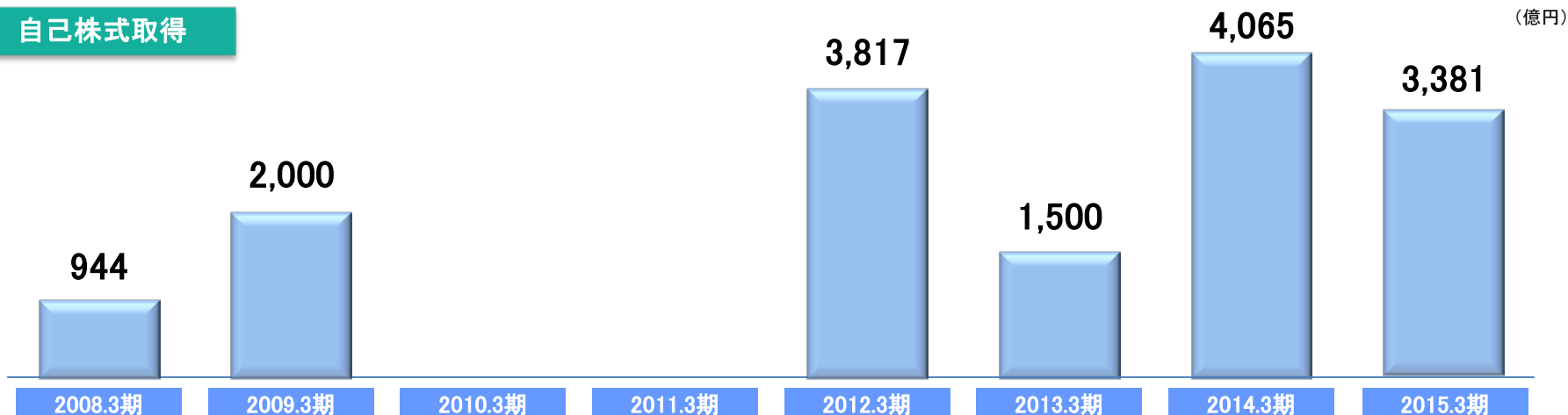
- **地域通信**: 減収傾向は継続するものの、光コラボレーションモデル本格化によるマーケティングコストの削減等により減収増益
- **長距離・国際通信**: 国内の競争激化による減収はあるものの、海外ビジネスの成長により増収減益
- **移動通信**: 新料金プランの減収影響の縮小やドコモ光、スマートライフ領域の増収に加え、徹底したコスト削減により、増収増益
- **データ通信**: 売上拡大に伴う粗利増や不採算の抑制、海外事業の収支改善等により増収増益

(単位: 億円)

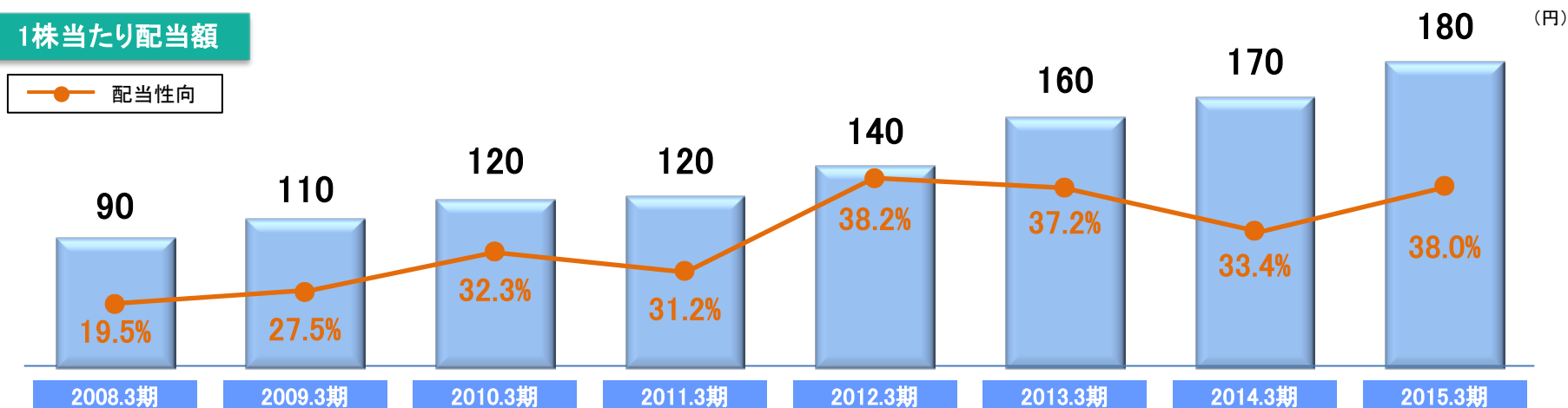


- 自己株式取得 : 2015年3月期は、政府を中心に3,381億円の自己株式を取得
- 配当 : 2015年3月期は、対前年10円の増額により、年間1株当たり180円の配当

自己株式取得



1株当たり配当額



● **配 当** : 2016年3月期は、中間配当を10円、期末配当を10円、合計20円増額し、年間1株当たり200円の配当

● **株式分割** : 投資単位当たりの金額を引き下げることにより、より投資しやすい環境を整えるとともに、投資家層の拡大を図ることを目的とし、1株を2株に分割*

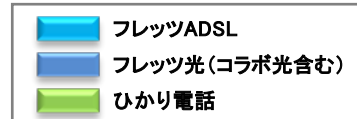
*効力発生日: 2015年7月1日

(注1) 上記株式分割を考慮した場合の2016年3月期の配当は、中間配当50円、期末配当50円、年間1株当たり100円。

(注2) 上記株式分割を考慮した場合の2016年3月期のEPSは、297.50円。

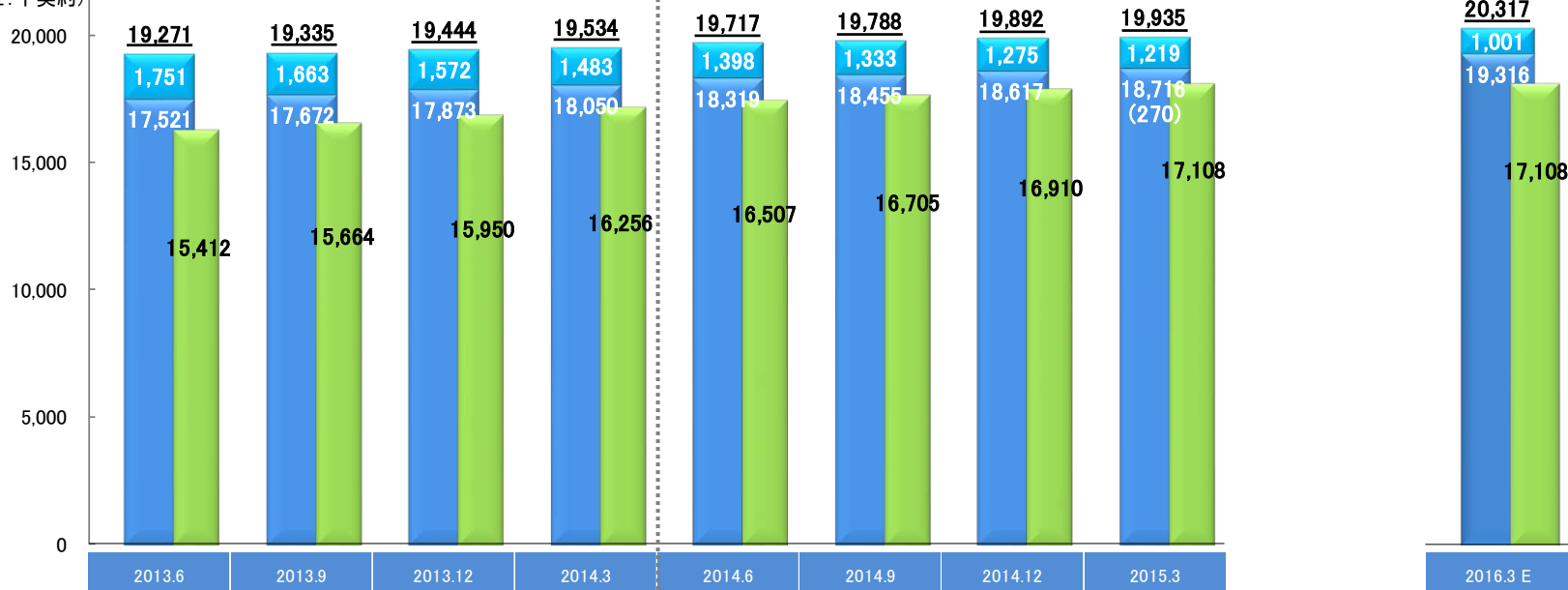
ブロードバンド・サービスの進展

固定ブロードバンドの契約数



契約数 ※1※2

(単位:千契約)



対前四半期別純増(減)数

	2014.3期				2015.3期				2015.3期 通期実績	2016.3期 通期予想
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3		
フレッツ光(コラボ光含む)※1	220	152	200	178	269	136	162	99	665	600
開通数 ※3	870	707	743	811	879	683	684	720	2,966	2,750
フレッツADSL	▲ 98	▲ 88	▲ 91	▲ 89	▲ 85	▲ 65	▲ 58	▲ 56	▲ 264	▲ 218
ひかり電話 ※4※5	242	252	287	305	251	199	204	198	852	0

※1 フレッツ光(コラボ光含む)は、NTT東日本のBフレッツ、フレッツ 光ネクスト、フレッツ 光ライト及びフレッツ 光WiFiアクセス、NTT西日本のBフレッツ、フレッツ・光プレミアム、フレッツ・光マイタウン、フレッツ 光ネクスト、フレッツ 光ライト及びフレッツ 光WiFiアクセス、並びにNTT東日本およびNTT西日本がサービス提供事業者に卸提供しているサービス(コラボ光)を含めて記載しております。

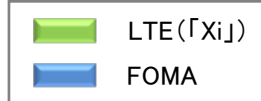
※2 NTT東日本およびNTT西日本がサービス提供事業者に卸提供しているサービス(コラボ光)契約数を()内に記載しております。

※3 開通数は移転による開通分を除いて記載しております。

※4 ひかり電話は、NTT東日本およびNTT西日本がサービス提供事業者に卸提供しているサービスを含めて記載しております。

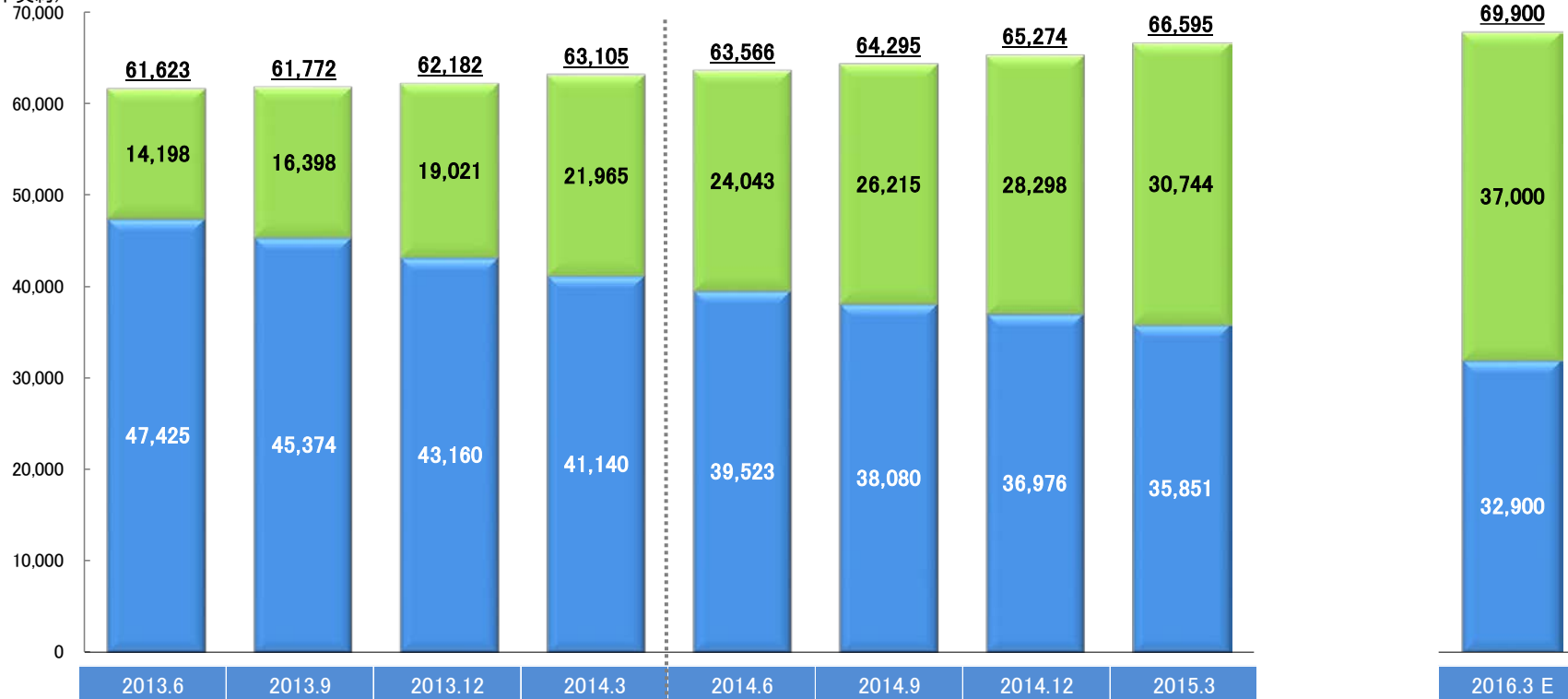
※5 ひかり電話は、チャネル数(単位:千)を記載しております。

2015年3月期決算、2016年3月期業績予想について



契約数※

(単位: 千契約)
70,000



対前四半期別純増数

	2014.3期				2015.3期				2015.3期 通期実績	2016.3期 通期予想
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3		
LTE (「FiJ」)+FOMA	87	149	410	924	461	729	979	1,322	3,490	3,300

※ 通信モジュールサービス契約数は移動ブロードバンド契約数に含めて記載しております。

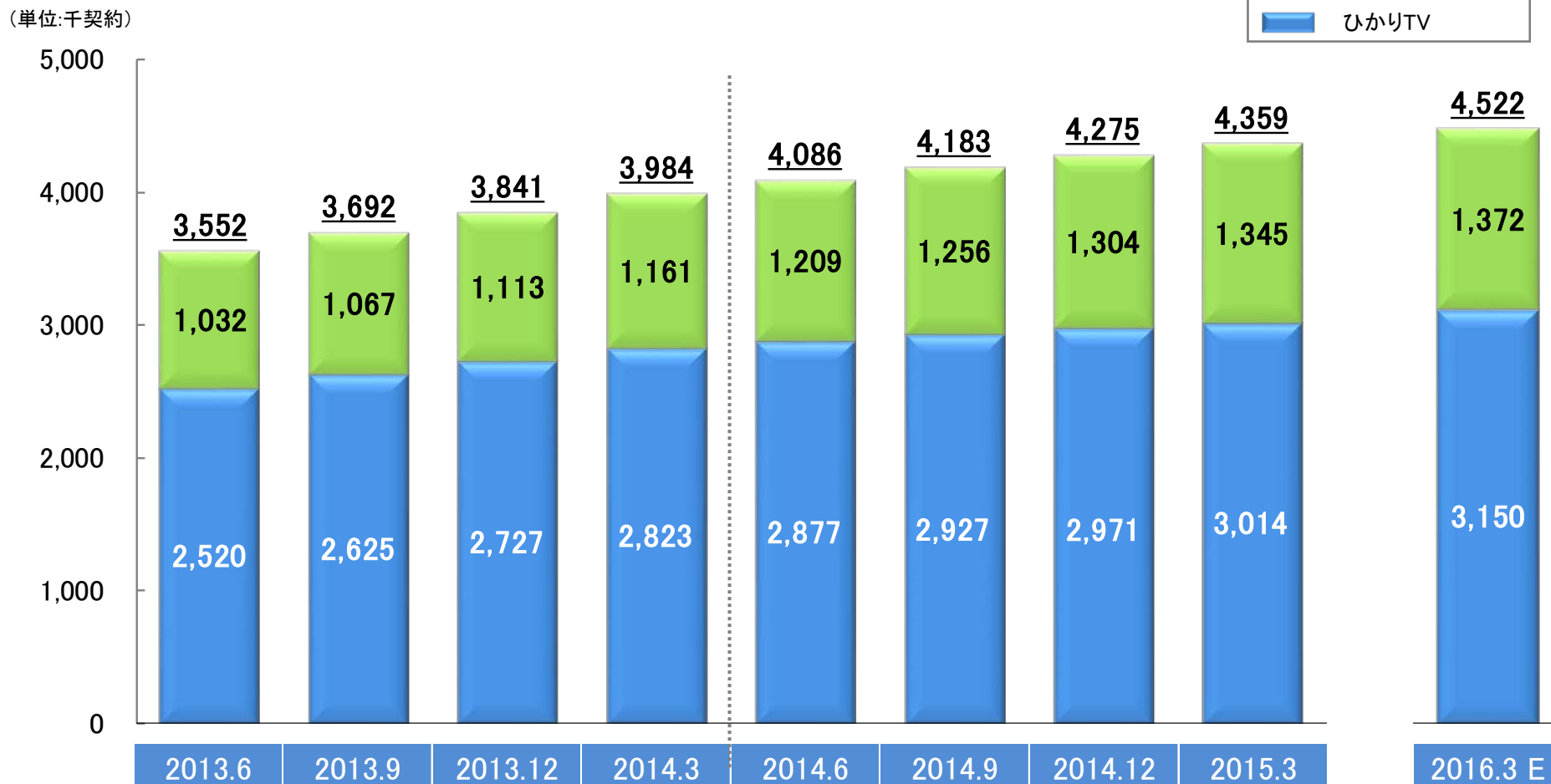
移動ブロードバンド(LTE(Xi)、FOMA)*のARPU



(単位:円)



※ 2015.3期第2四半期よりARPUの算定方法を変更しております。(それに伴い、2014.3期及び2015.3期第1四半期のARPU実績数値も変更しております。)
 ※ 各ARPUの算定方法等については、17ページをご参照下さい。



※1「フレッツ・テレビ」はNTT東西の「フレッツ・テレビ伝送サービス」の契約と、スカパーJSATの放送サービス「スカパーJSAT施設利用サービス」の契約により提供されるサービスです。

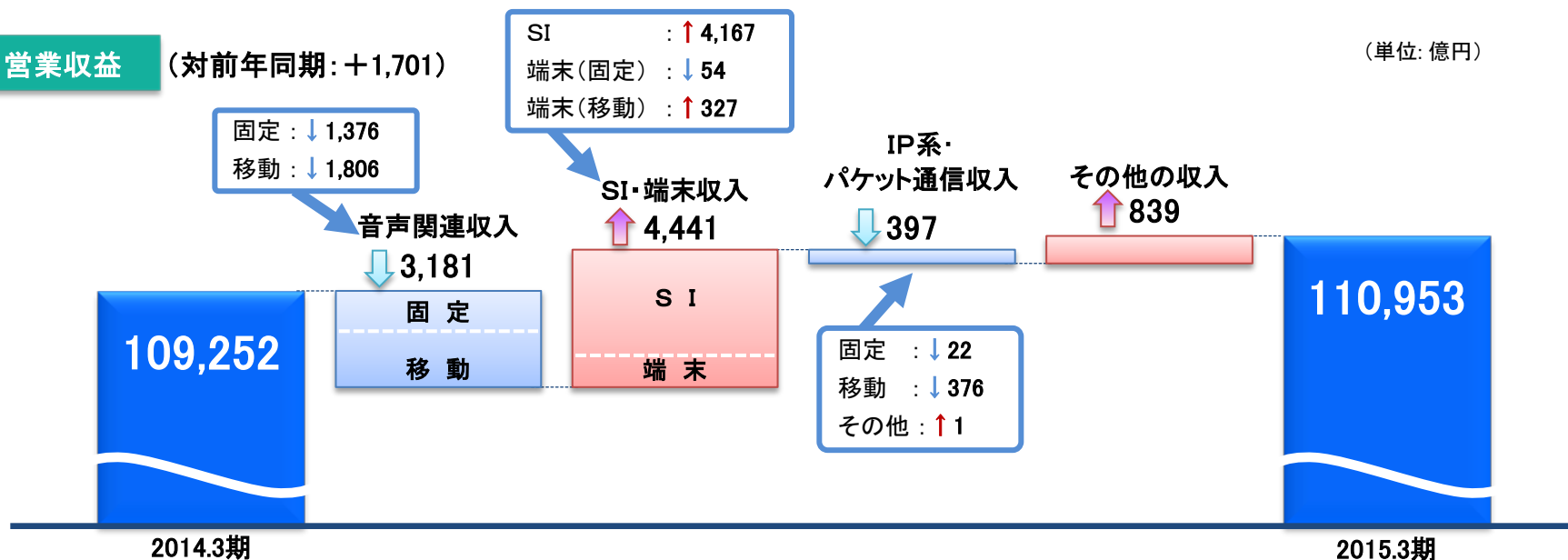
※2「フレッツ・テレビ伝送サービス」は、NTT東日本及びNTT西日本がサービス提供事業者に卸提供しているサービスを含めて記載しております。

財務状況

営業収益

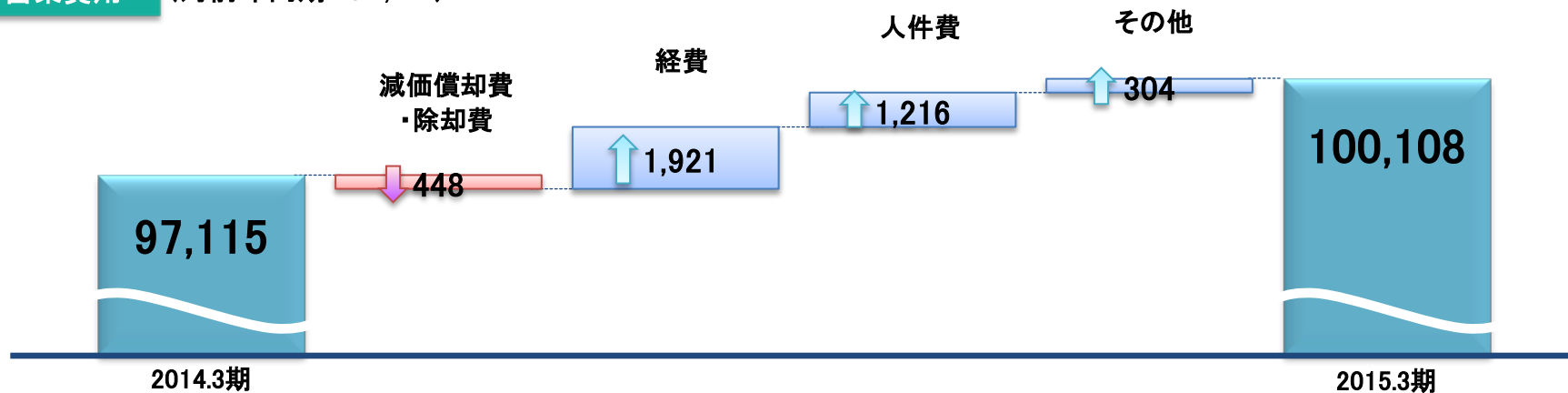
(対前年同期: +1,701)

(単位: 億円)



営業費用

(対前年同期: +2,992)

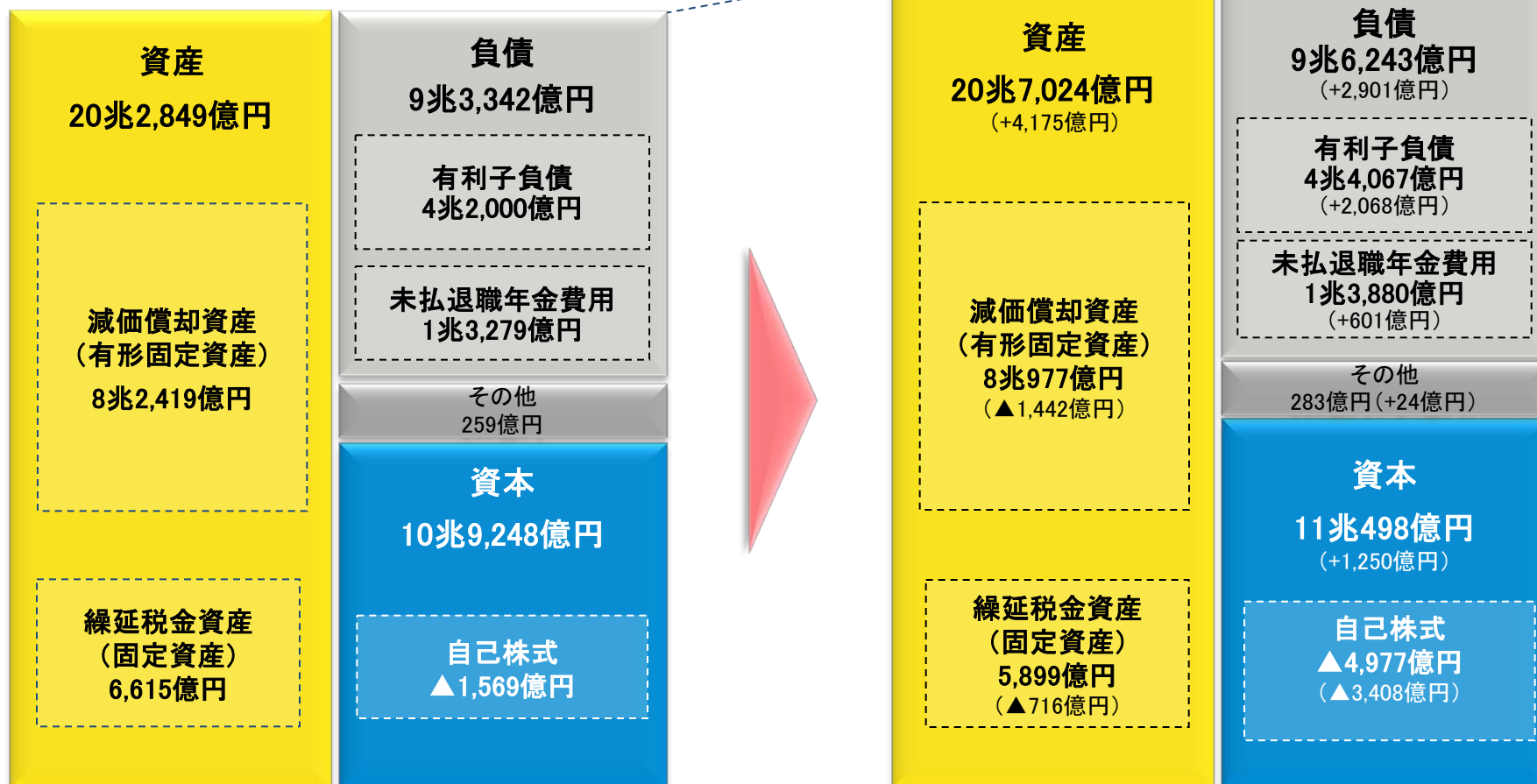


2014年3月期末

2015年3月期期末

20兆2,849億円

20兆7,024億円



営業CF

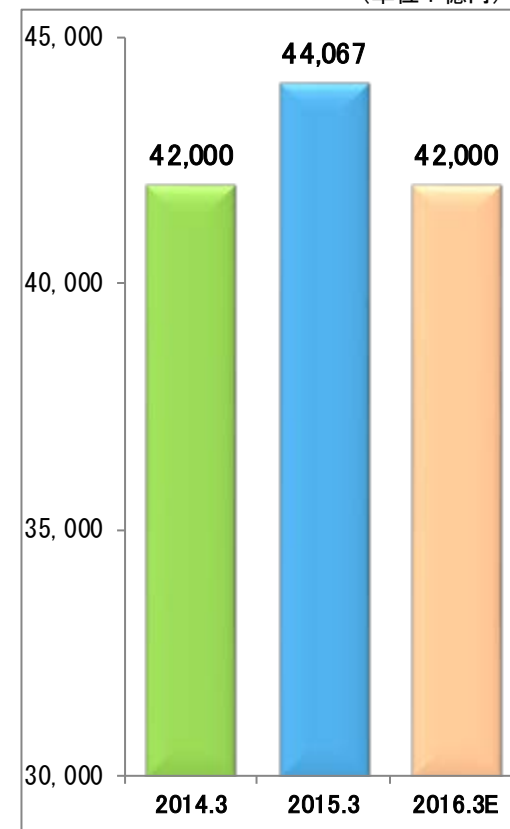
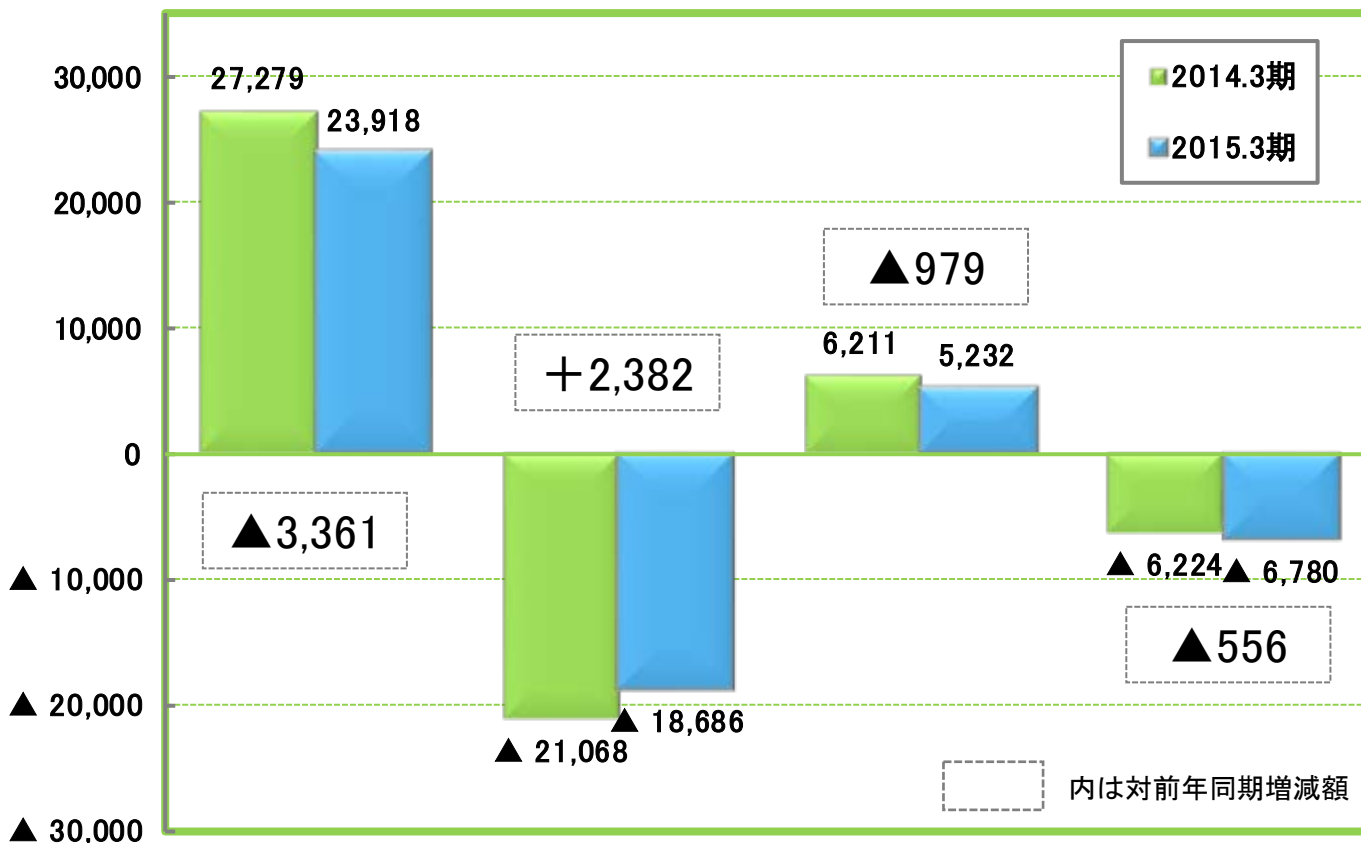
投資CF

FCF
(営業CF+投資CF)

財務CF

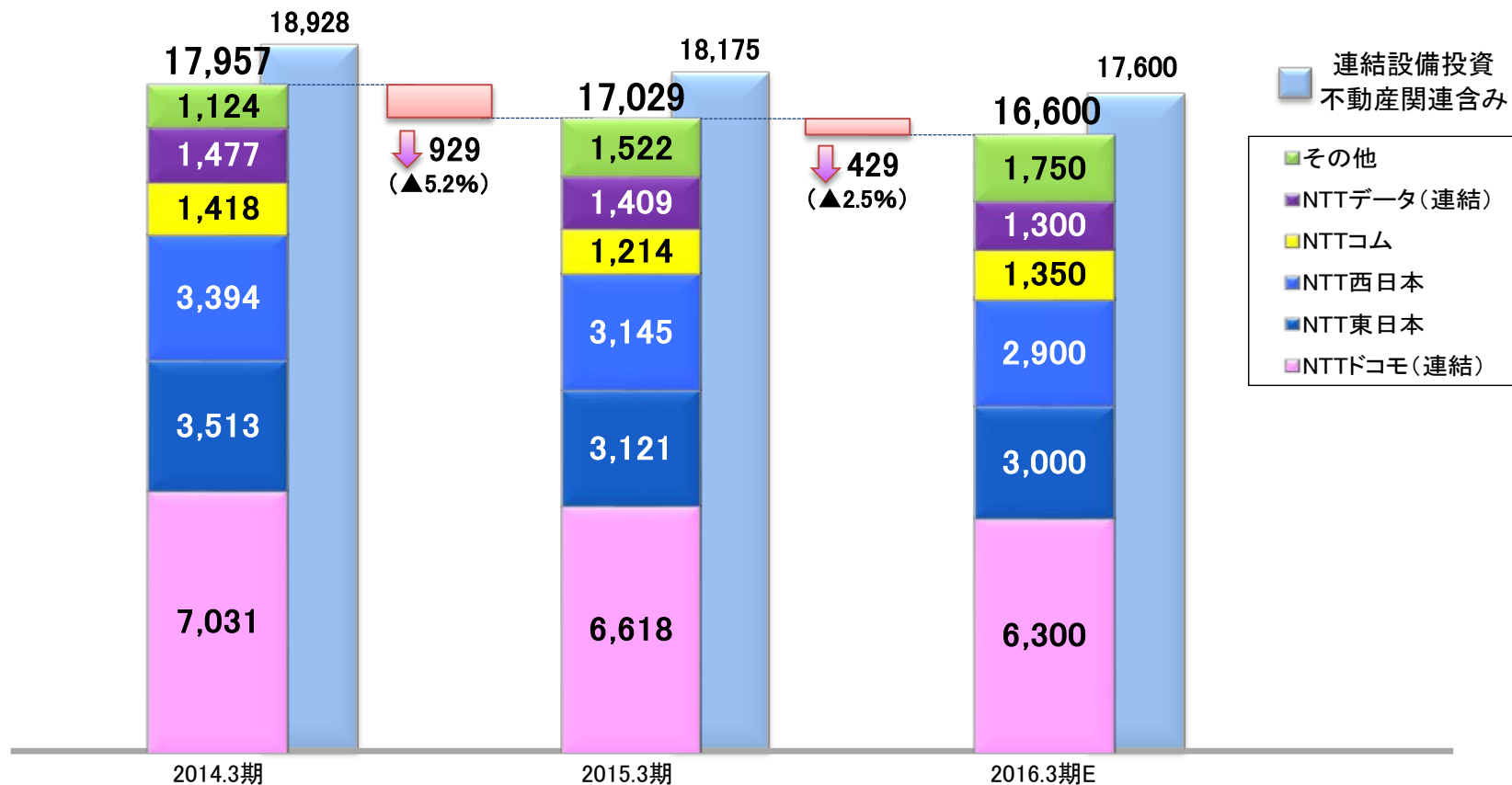
有利子負債

(単位：億円)



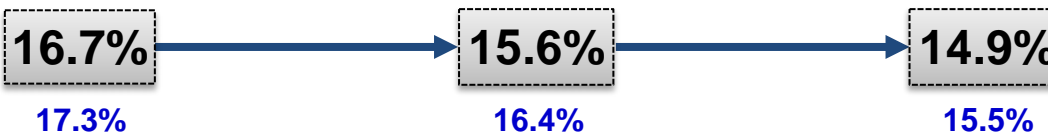
設備投資

(単位: 億円)



Capex to Sales

Capex to Sales*
(不動産関連含む)



* 不動産及び太陽光発電事業関連の売上、投資を含めた数値

1契約当たりの月間平均収入（ARPU）は、契約者1人当たりの平均的な月間営業収益を計るために使われます。移動通信事業の場合、ARPUは、移動通信事業の営業収益のうち、携帯電話（LTE (Xi)）、及び携帯電話（FOMA）のサービス提供により発生する収入（基本使用料、通信料/通話料、LTE (Xi) 及びFOMAサービスに付随する収入）を、当該サービスの稼働契約数で除して計算されます。これら数字の計算からは、各月の平均的な利用状況を表さない端末機器販売、契約事務手数料、ユニバーサルサービス料などは除いています。こうして得られたARPUは各月のお客様の平均的な利用状況を把握する上で有用な情報を提供するものであると考えております。尚、ARPUの分子に含まれる収入は米国会計基準による連結決算値を構成する財務数値により算定しております。

① NTTドコモにおけるARPU算出時の計算式は、以下のとおりであります。

- ・ 携帯電話総合ARPU (LTE (Xi)+FOMA) = 音声ARPU (LTE (Xi)+FOMA) + パケットARPU (LTE (Xi)+FOMA) + スマートARPU (LTE (Xi)+FOMA)
 - － 音声ARPU (LTE (Xi)+FOMA) は、FOMA及びLTE (Xi) サービスによる音声サービスの基本使用料と通話料の収入に基づいており、また、パケットARPU (LTE (Xi)+FOMA) は、LTE (Xi) 及びFOMAサービスによるパケットサービス月額定額料と通信料の収入に基づいており、スマートARPU (LTE (Xi)+FOMA) は、LTE (Xi) 及びFOMAのその他の営業収入の一部（コンテンツ関連収入、料金回収代行手数料、端末補償サービス収入、広告収入等）に基づいております。

② 通信モジュールサービス、「電話番号保管」、「メールアドレス保管」、「ドコモビジネストランシーバー」並びに仮想移動体通信事業者（MVNO）へ提供する卸電気通信役務及び事業者間接続は、NTTドコモのARPUの算定上、収入及び契約数のいずれにも含めておりません。

③ NTTドコモにおけるARPU算出時の稼働契約数の計算式は以下のとおりであります。

- ・ 第1四半期（4月～6月）実績=4月～6月までの各月稼働契約数{(前月末契約数+当月末契約数)/2}の合計
- ・ 第2四半期（7月～9月）実績=7月～9月までの各月稼働契約数{(前月末契約数+当月末契約数)/2}の合計
- ・ 第3四半期（10月～12月）実績=10月～12月までの各月稼働契約数{(前月末契約数+当月末契約数)/2}の合計
- ・ 第4四半期（1月～3月）実績=1月～3月までの各月稼働契約数{(前月末契約数+当月末契約数)/2}の合計
- ・ 通期実績/予想=4月～3月までの各月稼働契約数{(前月末契約数+当月末契約数)/2}の合計